

2013年常福寺旅行会レポート！！

去る5月12～13日に常福寺旅行会を催行しました。今年は「春の常陸路の観光温泉めぐりと常福寺のルーツを訪ねる旅」と題して、茨城県の各地を回ってきました。

初日の旅のスタートは、親鸞聖人が関東で布教生活をされていた時に住まわれていた^{かさましいなだ}笠間市^{そうあん}稲田^{そうあん}行き、草庵跡地に建っている西念寺（さいねんじ）を訪れました。本堂に参拝し、境内や近くにある記念碑などを見学しました。西念寺は、住職の^{ひいそぼ}曾祖母のご実家で、常福寺とも縁のあるお寺です。浅草の常福寺が震災で被害を受けた時には、西念寺より常福寺再建の支援があったそうです。

西念寺を後にして、笠間芸術の森公園で昼食をとり、周辺を自由散策しました。公園周辺は、笠間焼ギャラリーロードといって、笠間焼工房やギャラリーが点在しています。公園内には陶芸美術館もあって、終日陶芸に触れて楽しく過ごせるような施設が充実していました。

笠間から次は、常福寺開祖・八田七郎知朝（はったしちろうともりの）の出身地である常陸大宮市八田という地域を訪れました。常陸大宮市には、水戸と福島県郡山市を結ぶJR水郡線が通っていて、八田地区のほど近くに「玉川村駅」があります。むかしは那珂郡玉川村という地名だったことから駅名にそのまま残っているのでしょう。今回初めて訪れたことで、常福寺の正式名称につく「仏名山玉川院」と、住職の姓「八田」の由来の原点が分かって、約700年の時を超えた歴史といのちのつながりのご縁に感動しました。

常陸大宮市を後にして、バスは一路奥久慈^{おくくじ}へ向かいました。

初日最後の観光は日本三大名瀑の「袋田の滝」を鑑賞しました。新緑の爽やかで清々しい色と、迫力ある滝からの涼風が、私たちが癒してくれました。

その後、袋田の滝に近い宿泊先の「ホテル思い出浪漫館^{ろまんかん}」へ到着し、温泉と宴会とで一日の疲れを取りながら楽しい夜がふけていきました。

二日目の始まりはガイドさんに勧められて、袋田の滝土産として人気がある地元産りんごを使ったアップルパイのお店と、奥久慈産大豆を使った「舟納豆」のお店に立ち寄りました。その後、水戸^{みと}光圀公が^{みとみつくにこう}隠居生活を送ったという「西山荘」に行きました。テレビドラマのような諸国漫遊は実際にはされていなかったようですが、光圀公のお人柄が忍ばれるような静かな山里の居庵や竹林の佇まいを見学して、樹齢数百年の杉並木や、^{しょうぶ}菖蒲、山吹、山藤などの季節の花々が見事な庭園を散策しました。



稲田西念寺



八田地区の電柱



JR 玉川村駅



袋田の滝



ホテル思い出浪漫館にて



西山荘



西山荘庭園の藤棚

西山荘を後にすると、バスは那珂湊港^{なかにみなとこう}に向かい、海鮮丼の昼食と市場での買い物で休憩をとって、つくば市にある常福寺へ行きました。つくば市の常福寺は、竹ノ塚常福寺の元寺（もとでら）になります。前日訪れた常陸大宮市八田地域出身の八田七郎知朝（はったしちろうともりの）が、親鸞聖人の教化^{きょうけ}を受けて「入信房（にゅうしんぼう）」という弟子になります。入信房は建保四年（1261年）、現在のつくば市曾根^{そね}に常福寺を開山します。その常福寺から慶長元年（1656年）に第十二世住職「祐信（ゆうしん）」が江戸にやってきて、布教活動のために浅草^{あさくさ}に伽藍^{がらん}を構えたのが現在の竹ノ塚常福寺の始まりです。

お寺に到着して、まずは本堂で「正信偈（しょうしんげ）」のお勤めをして、八田信雄住職より、お寺に伝わる宝物^{ほうもつ}の掛け軸をいくつかご披露いただきました。内陣には、入信房の木像もご安置されていて、間近で拝見しました。

旅の最後は、住職さんから紹介していただいた近くにある筑波ハムの直売店に寄って、旅の思い出とお土産をたくさん持って帰路につきました。

時代は大きく変わりましたが、筑波山や周りの山々は700年以上経った今も当時の風景を残し、むかしに生きた人々の足跡が受け継がれて残っていることを知ること、とても感慨深い旅となりました。



つくば市・常福寺本堂



また、みなさんの笑顔^{しゅうじつ}が終日絶えない二日間の素敵な旅行会でした。来年も楽しい旅行会を企画しますので、お楽しみに！